令和５年度　もも病害虫防除暦

ながのブロック　飯綱地区

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍　率	散布量 (10a当り)	対象病害虫 ＊太字は重点病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策
特　散 発芽前 月　　日	— 16	水 スプレーオイル アプロードフロアブル	98 ℓ 2 ℓ 100 ㎖	50 倍 1,000 倍	350 ℓ	カイガラムシ類 ハダニ (アブラムシ類)	発芽前 14日前まで	— 3回以内	○灰星病の発生園では、冬期剪定時において枯れ枝やミイラ果の付着している枝は剪定して焼却する。 ○無風の時に枝先から丁寧に散布する。 ○コスカシバの秋期防除を怠った場合は発芽前までに、トラサイドA乳剤200倍(500㎖・発芽前)を散布する。
1 芽出し直前 月　　日	M2	水 展着剤(マイリノー) 石灰硫黄合剤	86 ℓ 5 ㎖ 14 ℓ	20,000 倍 7 倍	350 ℓ	胴枯病 縮葉病	発芽前	—	**○石灰硫黄合剤に替えてキンセット水和剤80 1,000倍(100g・開花直前)を散布しても良い。その場合は散布時期が異なるため注意する。** ○せん孔細菌病対策として5回目の防除まで展着剤はｱﾋﾞｵﾝEを使用する。
○コスカシバの発生が多い園では、フェニックスフロアブル500倍液(200㎖・開花期まで)を地際部から地上1m位までの樹幹および主枝に散布する。									
2 開花始め (1～2輪咲) 月　　日	M1	水 展着剤(ｱﾋﾞｵﾝE) ICボルドー412	97 ℓ 50 ㎖ 3 kg	2,000 倍 33 倍	350 ℓ	せん孔細菌病	—	—	○ケムシ類の発生が心配される園ではチューンナップ顆粒水和剤2,000倍(50g・前日まで)またはバイオマックスDF2,000倍(50g・前日まで)を特別散布する。 ICボルドー412とは混用しない。
せ　ん　孔　細　菌　病　特　別　防　除　期　間									
3 落花直後 月　　日	28 25	水 展着剤(ｱﾋﾞｵﾝE) サムコルフロアブル10 アグレプト水和剤	100 ℓ 50 ㎖ 20 ㎖ 100 g	2,000 倍 5,000 倍 1,000 倍	350 ℓ	せん孔細菌病 (アブラムシ) (カメムシ) ハモグリガ	前 日まで 60 日前まで	2 回以内 2 回以内	○予備摘果は出来るだけ早めに始め仕上げ摘果の倍量を残す。 ○せん孔細菌病の枝病斑は伝染減になるので早期に剪除する。 **○アグレプト水和剤は開花直後のぶどう園の周囲では散布しない。また、収穫前使用時期・散布回数(2回以内)に注意する。** ○アブラムシの発生が多い園では、ウララDF2,000倍(50g・14日前)を加用する。
○コンフューザーMMを120本/10a設置する。									

4 5月中旬 月　日	M9 9 41+25	水 展着剤（ｱﾋﾞｵﾝE） ㊞デランフロアブル コルト顆粒水和剤 アグリマイシン100	100 ℓ 50 ㎖ 166 ㎖ 50 g 66 g	2,000 倍 600 倍 2,000 倍 1,500 倍	400 ℓ	黒星病 せん孔細菌病 灰星病 ホモプシス腐敗病 （ハモグリガ） （ハマキムシ） （カメムシ） アブラムシ類 カイガラムシ類	7 日前まで 前 日まで 60 日前まで	4 回以内 3 回以内 2 回以内	○ダニの発生を防ぐためにも新梢および副梢芽掻き処理を行う。 ○疫病の発生予防のため、梅雨前にワラを敷く。 ○芯折れの除去を行う。 ○仕上摘果は、長果枝1～2果、中果枝1果、短果枝6～10本に1果を基準とする。を散布しても良い。 ○黒星病の感染最盛期にあたるので、果実を1個1個洗うように散布する。 ○アグリマイシン100は開花直後のぶどう園の周囲では散布しない。また、収穫前使用時期・散布回数（2回以内）に注意する。 ○㊞デランフロアブルに替えてトレノックスフロアブル500倍（200㎖・7日前まで）を散布しても良い。
5 6月上旬 月　日	M9 41 4	水 展着剤（ｱﾋﾞｵﾝE） ㊞デランフロアブル マイコシールド ※ダントツ水溶剤	100 ℓ 50 ㎖ 166 ㎖ 66 g 50 g	2,000 倍 600 倍 1,500 倍 2,000 倍	500 ℓ	黒星病 せん孔細菌病 ｼﾝｸｲﾑｼ類 カメムシ類 ハモグリガ アブラムシ類 （ﾊﾏｷﾑｼ） （ｶｲｶﾞﾗﾑｼ） 灰星病 ホモプシス腐敗病 （うどんこ病）	7 日前まで 21 日前まで 7 日前まで	4 回以内 5 回以内 3 回以内	○ウメシロカイガラムシの寄生が多い場合は、アプロードフロアブル1,000倍（100㎖・14日前）を加用散布する。 ○㊞デランフロアブルに替えてトレノックスフロアブル500倍（200㎖・7日前まで）散布しても良い。 **※印の殺虫剤はコンフューザー設置園では削除予定。**
6 6月中下旬 月　日	M7 28 41	水 展着剤（マイリノー） ベルクートフロアブル サムコルフロアブル10 マイコシールド	100 ℓ 5 ㎖ 50 ㎖ 20 ㎖ 66 g	20,000 倍 2,000 倍 5,000 倍 1,500 倍	500 ℓ	黒星病 灰星病 ホモプシス腐敗病 せん孔細菌病 （炭疽病）） （疫病） シンクイムシ類 ハマキムシ類 ハモグリガ （カイガラムシ） （ﾊﾀﾞﾆ類）	前 日まで 前 日まで 21 日前まで	3 回以内 2 回以内 5 回以内	○6月中下旬は袋掛け時期である。

7 7月 中旬 月　日	灰星病および腐敗病特別防除期間		水 展着剤（マイリノー）	100 ℓ 5 ㎖	20,000 倍	600 ℓ	灰星病 ホモプシス腐敗病 （疫病） （炭疽病）			○徒長枝の剪定及び捻枝を行い出来るだけ陽を当てて結果枝を作るように副梢を利用する。 ○灰星病は各品種の収穫前、20日間の防除が重要である。
		25	ダニコングフロアブル	50 ㎖	2,000 倍		（せん孔細菌病）	前 日まで	1 回	
		3	オーシャインフロアブル	50 ㎖	2,000 倍		シンクイムシ類 ハダニ類	前 日まで	3 回以内	
		4	※ダントツ水溶剤	50 g	2,000 倍		ハモグリガ カメムシ アブラムシ （ハマキムシ）	7 日前まで	3 回以内	**※印の殺虫剤はコンフューザー設置園では削除予定。**
8 7月下旬 ～ 8月上旬 （白鳳除袋後） 月　日			水 展着剤（マイリノー）	100 ℓ 5 ㎖	20,000 倍	600 ℓ	灰星病 ホモプシス腐敗病 炭疽病 シンクイムシ類 アザミウマ類 カメムシ類 （ハダニ類） （ヤガ類） （ハマキムシ類）			○着色向上のため反射マルチを使用する。 ○有袋果実は除袋直後に散布する。 ○収穫期近くに降雨が多い場合は特に灰星病等果実腐敗病に注意し防除を徹底する。
		11	フリントフロアブル25	50 ㎖	2,000 倍			前 日まで	3 回以内	
		3	アーデントフロアブル	50 ㎖	2,000 倍			前 日まで	3 回以内	
特別散布 8月中旬 月　日			水 展着剤（マイリノー）	100 ℓ 5 ㎖	20,000 倍	600 ℓ	灰星病 ホモプシス腐敗病			**○白鳳だけでなく着果しているすべての品種に散布する。**
		M7	ベルクートフロアブル	50 ㎖	2,000 倍			前 日まで	3 回以内	
9 8月下旬 （川中島白桃 除袋後） 月　日			水 展着剤（マイリノー）	100 ℓ 5 ㎖	20,000 倍	600 ℓ	灰星病 ホモプシス腐敗病 （炭疽病） シンクイムシ類 （ハダニ類） ハモグリガ アザミウマ類 （ヤガ類）			○ハダニの発生が見られる場合は、ダニゲッターフロアブル2,000倍（50㎖・前日）を加用散布する。
		3	オンリーワンフロアブル	50 ㎖	2,000 倍			前 日まで	3 回以内	
		5	ディアナWDG	10 g	10,000 倍			前 日まで	2 回以内	
10 9月中旬 月　日		M1	水 ICボルドー412 展着剤(K.Kステッカー) 最後に混用する	97 ℓ 3 kg 33 ㎖	33 倍 3,000 倍	600 ℓ	（コスカシバ） （ハモグリガ） せん孔細菌病	—	—	○主幹形仕立てについては、9月上～中旬に必ず秋期剪定を行う。 ○ハモグリガの発生が多い園ではスミチオン乳剤1,000倍（100㎖・3日前）を散布する。葉にも十分散布する。
11 前回散布から 2週間後 月　日		M1	水 ICボルドー412 展着剤(K.Kステッカー) 最後に混用する	97 ℓ 3 kg 33 ㎖	33 倍 3,000 倍	600 ℓ	せん孔細菌病 （コスカシバ） （ハモグリガ）	—	—	○コスカシバの被害の多い園は収穫終了後にトラサイドA乳剤200倍（500㎖）を主幹及び主枝に特別散布する。